

2025 年度リハビリテーション室活動報告

1. 「たねザップについて」

リハビリテーション室副主任 理学療法士 小川哲哉

2. 「3 学会合同呼吸療法認定士取得について」

リハビリテーション室 理学療法士 上梨凌平

3. 「第 34 回鹿児島県作業療法学会に参加して」

リハビリテーション室室長 作業療法士 酒井宣政
リハビリテーション室 作業療法士 山田琉奈・原崎響輝

4. 「鹿児島県理学療法士協会 2025 年度

第 1 回種子島・屋久島地区症例検討会に参加して」

リハビリテーション室 理学療法士 入江宣圭・藤田 優

5. 「鹿児島県言語聴覚士会

鹿児島地区ポイント取得対象症例研究発表会に参加して」

リハビリテーション室 言語聴覚士 北上瞭歩

たねザップについて

リハビリテーション室副主任 理学療法士 小川 哲哉

当院では2024年5月より職員福利厚生の一環として、リハビリテーション室内に院内ジム「たねザップ」を開設しました。REVOLUONE オールインワンスマシンのフィットネスバイクを整備し、当院勤務の職員だけでなく、法人内の職員にも幅広くご利用いただけるようにしております。

今年度で開設より2年が過ぎました。1年目は院内の医師・リハビリ職・看護職を中心に利用いただきましたが、利用人数をなかなか増やすことはできませんでした。

今年度はSNS (Instagram) で職員に向けての発信や、運動の導入として取り組みやすい集団トレーニングの開始などにも取り組んでおります。年間を通して、法人内の医師・看護師・ナースエイド・検査技師など少しずつですが、職種や職場の幅も広がってきました。中でもナースエイドの皆様が仕事終わりに、フィットネスバイクを漕いでから帰るという姿が多く見られることは嬉しく思います。

患者の健康を守るために我々自身の健康も守っていきましょう。職員のご入会をぜひお待ちしております。



3 学会合同呼吸療法認定士取得について

リハビリテーション室 理学療法士 上梨 凌平

3 学会合同呼吸療法認定士とは、日本呼吸療法医学会、日本胸部外科学会、日本麻酔科学会の 3 学会が認定する資格です。講習受講と試験合格により認定される呼吸療法に関する知識と技術を身につけた医療従事者を対象としています。

私が 3 学会合同呼吸療法認定士の取得を目指した理由は、呼吸器を装着した患者様を受け持つなかで、より安心して関われる力を身につけたいと感じたこと、また身内に呼吸器を使用している人がいた経験から、現場で活かせる知識を持ちたいと思ったからです。

学習を通して、呼吸器の仕組みや病態、血液ガスの理解が深まり、これまで感覚的だった判断に根拠が持てるようになったと感じています。患者様の状態変化にも気づきやすくなり、より安全で丁寧な関わりができるようになりました。また、他職種や同僚に自信を持って意見を伝えられるようになり、自分自身の強みとして活かしている実感があります。

今回の経験は自分の中で確かな武器となり、今後の臨床にも繋がっていくと感じています。

第34回鹿児島県作業療法学会に参加して

リハビリテーション室 作業療法士 酒井 宣政・山田 琉奈・原崎 響輝

今回、第34回鹿児島県作業療法学会に参加し、口述・ポスター発表と学会の講演を聴講させていただいたのでここに報告します。

<学会内容>

令和7年10月12日(日)に伊佐市民文化会館で開催されました。テーマは「地域に輝く挑戦者たち～作業療法の未来へ～」とし、現地だけでなくオンラインでも参加できるハイブリッド学会でした。

<感想・今後の抱負>

○酒井宣政

今学会では「当院における入院時の嚥下機能評価フローチャートの取り組みから見えてきたこと」として過去に携わらせていただいた摂食・嚥下ワーキンググループの取り組みをポスターで発表させていただきました。ポスター発表は人生初のことでした。ポスターを仕上げていく過程や何を伝えるのか?ということに関して、共同研究者の大田巧真さん、松尾あやのさん、和田楓貴さん、長田和也さんの協力を始め、何より早川部長や高尾病院長の多大なご協力を得て発表へ辿り着くことができました。他にもプレ発表では貴重な時間をお借りして参加していただいた仲間に多くのご意見をいただきました。兼ねてから学会での研究発表は全力を尽くして作り上げたスライドやレジュメにご意見をいただき、作り替えていく過程で鍛えられていく感覚がありました。ポスターの完成度には、ご意見が大きく影響するため、いただいたご意見をもとに何度も細かく修正を重ね、ポスターへ反映させていく過程もまた大きな学びとなりました。発表では30分間、常に説明させていただく機会を得て声がかれてしまいましたが、とても良い経験になりました。今後も今回の学びを止めることなく当院のため、食べることに関する研究を進めていきたいと思えます。

○山田琉奈

今回、伊佐市文化会館にて開催された『第34回鹿児島県作業療法士学会』に参加させていただきました。今回、初めての県学会発表で、発表者・聴講者共にたくさんの参加者がいらっしやるとのことでも緊張しました。抄録の作成・提出、スライドの

作成・プレ発表まで、伝えたいことを伝えることが難しく、また簡略的にスライドを作成することに苦戦しました。院長を始め、先輩方にたくさんのアドバイスをいただき、無事に発表を終えることができました。質問では治療アプローチの割合や頻度などを聞かれましたが、緊張もあり自分の意見を一度でうまく伝えきることが難しく、他の発表者との差を感じた部分でもありました。今回、とても勉強になったのと同時に、自分の課題も多く見つけました。次回参加させていただくときには今よりも成長した自分で挑めるように、今回学んだことを日々の業務にも活かしていきたいと思えます。

○原崎響輝

今回、令和7年度10月12日に伊佐市文化会館にて開催された『第34回鹿児島県作業療法士学会』に参加させていただきました。学会で発表してみないかとお誘いをいただき、昨年度に同期や先輩が学会発表に挑戦する姿をみて自分も頑張りたいと思い参加する決意をしました。発表形式は口述発表で「肘頭骨折により活動と参加に制限を有した症例～ADOC-HとMTDLPを使用し生活行為の再獲得を目指して～」といったテーマで発表させていただきました。準備に苦戦しましたが先輩方からの意見や質問をもとに更新を繰り返して納得のいくものができたので良かったです。公開講座やシンポジウム、他演者の発表聴講や意見交換を行ったことでたくさん刺激をもらいました。得たことを臨床場面で活かせるようにこれからも頑張りたいと思えました。



リハビリテーション室 理学療法士 入江 宣圭・藤田 優

○入江宣圭

今回、種子島・屋久島地区症例検討会に参加し発表をしました。特に発表する予定はなかったのですが、部長から声をかけていただき、自分の意志でやってみようと思い参加しました。

準備期間が短く、過去の症例だったこともあり、記憶の断片を接ぎ合わせながら、見ていただく方に分かりやすく表現することに難渋しました。

また、準備をしていく上で他病院の医師と話す機会が何度かありました。過去の自分であれば面倒くさがってやらなかった難題にも挑戦することが出来ました。

今回のような症例検討会へ参加していくことで取得可能な、登録理学療法士への挑戦心を鼓舞できたので参加をして良かったと思います。

○藤田 優

今回、種子島・屋久島地区症例検討会に参加させていただきました。

発表させていただいた症例は、基本動作に全介助を要し、施設退院が検討された方です。初回介入から退院まで担当させていただくことができました。本人様、ご家族様と相談しながら介入を行うことができ、自宅退院をすることができました。

発表に向けての準備では、何を伝えたいのか、見てくださる方に伝わりやすいようにパワーポイントを作成することが難しかったです。先輩方にお時間を頂き、沢山の助言や指導をいただき、完成することができました。発表準備は入江さんが主に動いてくださり、非常に助けられました。

今回の症例発表を通して、多くの学びを得ることができました。また、今回は入江さんの発表も聴講することができ、学びを深めることができました。これから、臨床場面で活かすことができるよう、さらに努めていきます。

令和8年1月30日(金)に開催された鹿児島県言語聴覚士会症例検討会(鹿児島県地区)にて、「左心原性脳塞栓症により発語失行を呈し音声言語コミュニケーションに制限をきたした症例～会話場面への汎化に着目したアプローチ～」について発表させていただきました。院外での発表は今回が初めてであり、成長できる機会となりました。

発表させていただいた症例は初回介入から退院時まで一人で担当しました。コミュニケーションに制限があり発話が困難な状態でしたが、最終的に会話を楽しめるまでに回復された症例です。私との訓練中は会話ができるようになりましたが、他のスタッフとのコミュニケーションへ繋げることに苦労しました。試行錯誤しながら関わりの多いスタッフから徐々に輪を広げ、他スタッフとも談笑ができるまでになりました。

準備期間においては、パワーポイントでのまとめ方、伝え方に苦戦しました。先輩方に多くのご指導やご助言をいただき、貴重なお時間を割いてサポートしていただいたことで本番に向けて準備を進めることができました。

当日はオンラインで発表を行いました。自宅という安心できる環境ではありましたが、非常に緊張し、手や声が震えながらの発表となりました。発表中には一部音声トラブルもありましたが、無事に終えることができました。発表後には、多くの言語聴覚士の方々よりご意見やアドバイスをいただくことができました。

症例検討会での発表を通して多くの学びを得ることができました。今回は発表者が私一人であったため、他の発表を聴講する機会がありませんでしたが、今後は様々な発表を聞き、さらに学びを深めていきたいと感じました。今後も今回の経験を活かし、全人的な支援ができる言語聴覚士となれるよう努めていきたいと思っております。